

道徳教育研究協議会における事後アンケートのまとめ

開催日：令和元年12月13日(金)

開催場所：猿払村立浅茅野小学校

1	道徳教育推進教師の皆様向け 「本校の実践や講座をヒントに、自校の道徳科授業において追試できること(生かせること)」 一般参加の皆様向け 「本校の実践や講座をヒントに、自分の道徳科授業で追試できること(生かせること)」
○内容項目を一緒にし、導入、まとめで異学年交流を図ることは、今後、自分の授業で行ってみたい。 ○同じ内容項目にすると、複式学級でも可能だということが実際に見て理解できた。 ○内容項目をそろえた複式の道徳の授業(2名) ○授業の中での異学年交流 ○他校の児童の意見を紹介し、考えを広げたり、深めたりしていたこと。(6名) ○模造紙を活用したり、ホワイトボードや黒板に児童の書いてもらうことで板書の時間を短縮していたこと。 ○考えが見やすい(分かりやすい)ワークシートや板書(5・6年) ○ワークシート交流 ○1人1人のワークシートではなく、ワークシートを使った学び合いを行っていく。 ○授業のスタイルとして、3つのパターンを試行錯誤していること。 ○同内容、異内容、他教科との道徳への挑戦と検証 ○発問を精選し、道徳的価値に触れ合う時間を確保すること。 ○マッピングを使った児童の思考の広げ方 ○心の位置・変化を視覚化する。(2名) ○実態に合わせて物語を読む・聴かせる方法のバリエーション ○考える・聴く心構えをもつ導入や投げ込み(アンケート・他者の教え) ○道徳アンケートの活用 ○気持ちを表す言い方を“心の声”で統一すると、児童も考えやすいこと。 ○別様の見直し(見やすく使いやすいものに) ○複式校としての授業改善、学校教育全体での道徳教育の教職員の共通理解、方向性の確認 ○授業づくり、授業の流れ、どちらも大変参考になった。(目標を達成するために教材の提示ポイントをおさえてコンパクトにしている、発問内容を絞っている、アンケートや村内の連携を感じる、他校児童の意見の活用、ワークシート等、学校に戻ったら他の教職員に伝えたい) ○導入の仕方、教材の扱い方(考えさせたい時間を確保するための掲示物やあらすじ)も新しい発見だった。マッピングを利用したまとめ方もよかった。 ○年間計画作成時の学校の実態把握の大切さを再確認でき、勤務校の実態に合わせた計画づくりをしていく。 ○授業公開に向けて授業作りをしっかりとすることは大切だと思う。年に1・2回くらいは道徳についての公開授業は必要だと思うので、取り組みたい。 ○教職員全てがベクトルをそろえるためにどうしたらよいか。	

2	道徳教育推進教師の皆様向け 「本校の実践や講座を基に、自校の道徳教育や道徳科授業を進めるうえでの新たなアイデア」 一般参加の皆様向け 「本校の実践や講座を基に、道徳教育や道徳科授業を行ううえでの新たなアイデア」
	○他校や他学年の連携でも内容項目が同じであれば交流できる。形態の1つとして参考にできる。 ○異学年交流(導入と終末を共通にする)。他学校との連携は本校でも取り組んでいきたい。 ○複式異内容の「道徳科」の進め方。「内容項目」をそろえてみるパターン。 ○導入やまとめを異学年と一緒にを行うために価値項目をそろえる。 ○他校との児童の意見の交流(2名) ○他校の児童の意見(前年度の先輩の意見)の活用 ○他校とTV電話等を使って一緒に行えないか。 ○他校の学習を使った、考えの深まりや主体的な学習を行っていく。 ○学級目標への位置づけ ○低学年と高学年でのねらいの違い。 ○複式授業としての授業形態は、一般化されているものだと思うが、これを「道徳」で行うところを見ることができてよかった。 ○具体的な授業構成のしかた ○ワークシートの内容を充実させていく。 ○ワークシート、マッピングの活用 ○考えを表現するための方法の多角化(文・発表・図など実態に合わせて) ○授業の中に同時間接の時間をつくること(講座で紹介されたように) ○道徳ノートから深める今までの自分と対比する授業(よくばらない別葉づくり) ○別葉や単元配当表の作成方法 ○授業が単発に終わらない、行事や日常生活とのつながりの意識 ○道徳教育を進める上でのカリキュラム・教育課程上での位置づけ ○複式の授業で大切にされていることや苦労していることは、校種や規模が違っていても大切であり、必要であることに変わりないため、それを(自分の立場から)伝えていきたい。 ○学校重点目標をそのまま学級目標にする。

3 「その他、研究協議会を通して学んだこと、考えたこと」

○道徳と他教科、道徳と道徳という2パターンの在り方は大変参考にあり、自校に帰り返元したい。
○様々な形態の在り方は参考になった。

○内容項目の整理がなされていると思う。教職員の共通理解(我が校の重点)をもう1度確認したい。
○同内容でも、中学年で求めること、高学年で求めることの吟味
○同じ内容項目で行うと、学年が違ってもみんなで意見を出し合い、共有できる。

○脱読み取り発問で、児童の思考を深める時間を確保していきたい。

○教科書の活用について

○道徳の授業における“教材”のあり方、特に複式では教材提示の方法を様々に工夫していく必要があることを考えさせられた。(常に同じ方法でなくてもよいし、じっくり“教材”で学ぶこともあるし、教材はきっかけにすぎないこともあっていいこと)

○分けて違う授業を行ったときに、児童は他の授業の方が気になるのではないか。

○学年ごとに分けてしまうと、人数が少なくなり考えが煮詰まってしまう。

○分けて行くと待つ時間が増える。(教材があっても児童のペースによって変わる)

○児童の価値観をゆさぶっていてよい授業だった。

○道徳授業の取り組み方として、とても参考になった。

○複式の授業づくりを単式で行うことで、余裕が生まれそうだと感じた。

○公開授業や講演が勉強になった。自校の教職員にしっかり伝えたい。

○講座からはたくさんのことを学ぶことができた。

○学級の掲示もすばらしく、児童の様子からもあたたかい学級の雰囲気伝わってきた。

○授業規律と児童との信頼関係が大切であることが理解できた。

(集中する、自分のやることがわかる、助けを求める、待つ、声のコントロール)

○やはり人間理解

○小規模校ならではの課題を、デメリットとして捉えるのではなく、よさに変えることができる、ということ
を改めて学んだ。学校規模にかかわらず、取り組めることや、道徳への見方、授業づくりの視点など、短時間だったが、やってみよう、他の人に知らせたい、と思うことがたくさんあった。

※ 文体をそろえております。ご了承ください。